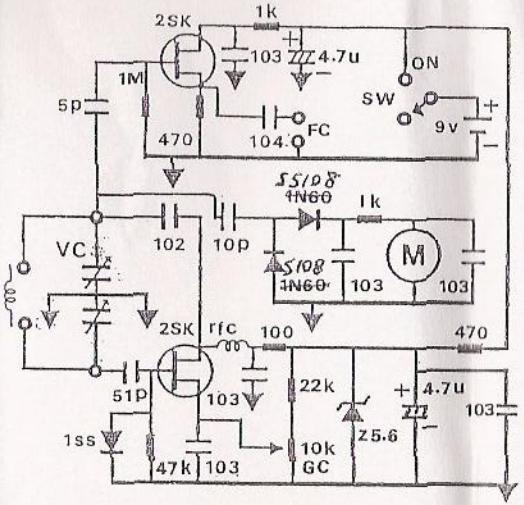
デップ　メーター　DIP METER

1．デップメータ　４本のコイルで７ＭＨｚから１６０ＭＨｚまでカバーします。
　別売りの３．５ＭＨｚ用コイルキットで３．１－８ＭＨｚ位迄カバーします。
2．テストオシレータ　７ＭＨｚから１６０ＭＨｚの基本発振なので高調波を捕らえれば４８０ＭＨｚ位まで無変調キャリヤでテストができます。
3．吸収型周波数計　発振強度を弱めて（１０ｋトリマーを左り一杯にまわして）使用します。発振源にコイルを近ずけるとメータが強度に応じて振れます。
4．クリスタル　チェッカー　ソケットに水晶発振子（ＨＦ原発振）を挿入してメータの振れ具合で　そのクリスタルのアクテビテイが分かります。

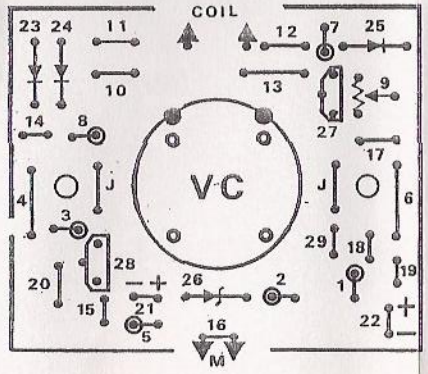
組立　部品表のパーツ番号と部品実装図の番号に合わせて挿入しハンダします。（極性に要注意）配線も図のようにアルファベットに合わせて接続します。小さいパーツから順に進めます。パーツの高さは１３ミリ内で低くします。
ダイアル目盛は目安なので正確には周波数計か受信器のＳメータ又はＣＷビートで確認してダイアル目盛板の白線にプロットして下さい（別売の３．５Ｍキットの中には記入用ブランク目盛板が入ってます。）目盛板とツマミは仮圧入なので外れます。プロット記入が楽な為で終わったら接着します。目盛板が内側に反っていたら内径をナイフで少し削ると良いです。目盛板の本体のバリコンへの取り付けは先ずバリコンを左り一杯に回しておいてから目盛板のＡ／Ｂバンド△印しと本体の▽印しを合わせてネジ止めします。
ＨＯＷ　ＴＯ　ＵＳＥ　被測定子のだいたいの共振周波数に合うバンドコイルを選んでソケットに差しＯＯ６Ｐ型電池をＯＮにするとメータが振れます。各バンドコイルそしてバリコンの容量位置によって発振強度が異なるので容量が最大の所でメータ針が中間位になるように本体右側面にあるＧＣ穴から絶縁型マイナス（２ミリ）ドライバーで１０ｋトリマーを調節します。左り一杯に回すと発振強度が弱でその反対が強です。Ｄバンドコイルが一番弱いので強にします。被測定コイルに近ずけてダイアルを回してデップ点を探したら少し離して再度デップ点を探しデップが浅い方が周波数が正確です。

RCAジャックはケースのＦＣマークの穴に取り付け。

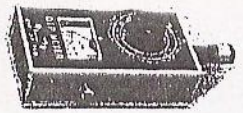
回路図



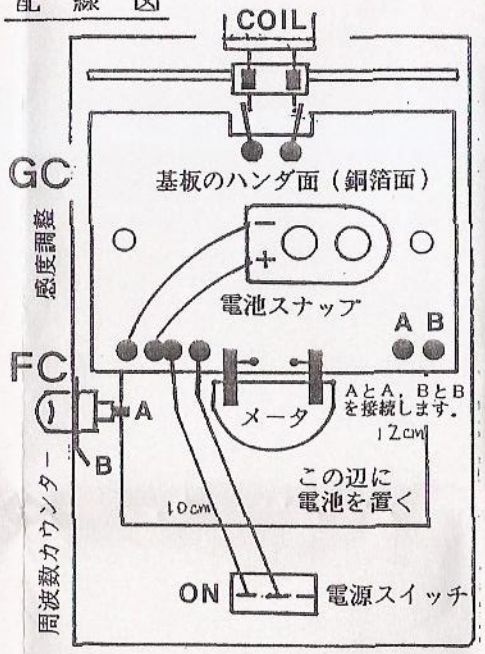
部品実装図



実装図の（Ｊ）はジャンパー線で抵抗器等の切線を利用してハンダ。



配　線　図



備考：＊＊１６番の１０３ｐｆはハンダ付後リード線はメータ端子に接続の為切断しません、１０３ｐｆは寝かせて下さい。
＊＊＊電池スナップ赤線（＋）
〃　〃　黒線（－）
コイルソケットは短時間でハンダ付けしないとソケット樹脂が溶ける可能性があり要注意です。

←各部品は１３ミリ以下の高さでハンダ付けしてください。

９ｖ電池は各自購入しますケースの中で踊らないようにパッキングしてください。３．５Ｍコイルは（３．１～８Ｍ位）記入式目盛板つきで梱包／送料込　１５００円

デップメーター部品表

番号	品名	確認	備考
1	１００Ω抵抗茶黒茶	□	
2	４７０Ω　〃黄紫茶	□	
3	４７０Ω　〃黄紫茶	□	
4	１ｋΩ　〃茶黒赤	□	
5	１ｋΩ　〃茶黒赤	□	
6	２２ｋΩ　〃赤赤橙	□	
7	４７ｋΩ　〃黄紫橙	□	
8	１ＭΩ　〃茶黒緑	□	
9	１０ｋΩ　トリマー	□	
10	５ｐｆセラコン５	□	
11	１０ｐｆ　〃　１０	□	
12	５１ｐｆ　〃　５１	□	
13	１０００ｐｆ〃１０２	□	
14	０．０１ｕｆ〃１０３	□	
15	０．０１ｕｕｆ〃１０３	□	
16	０．０１ｕｕｆ〃１０３	□	＊＊
17	０．０１ｕｕｆ〃１０３	□	
18	０．０１ｕｕｆ〃１０３	□	
19	０．０１ｕｕｆ〃１０３	□	
20	０．１ｕｆ　〃１０４	□	
21	４．７ｕｆ　タンタル	□	＊
22	４．７ｕｆ　〃	□	＊
23	ＳＳ１０８　ダイオード	□	＊白
24	ＳＳ１０８　〃	□	＊白
25	１ＳＳ　〃	□	＊黄
26	Ｚ５．６　〃	□	＊黒
27	２ＳＫ１９２Ａ　ＦＥＴ	□	＊
28	２ＳＫ１９２Ａ　〃	□	＊
29	ＲＦＣチョーク４７１	□	
	コイルセット　４本組	□	
	プリント基板　Ｄ	□	
	９ｖ電池スナップ	□	＊＊＊
	ビニール線　約２２ｃｍ	□	
	タップネジ　４ヶ	□	
	ＲＣＡジャック	□	

備考：＊＝極性あり要注意
ダイオードのカソード（Ｋ）帯色
〃　＝Ａ ―▷|― Ｋ
〃　＝Ａ ―|▷― Ｋ
抵抗器のカラーコードはメーカによって多少　色具合が異なるので要注意です。場合によってはテスターで確認します。

スワンテック　〒３５９－１１３３
埼玉県所沢市荒幡９４１－１３
Ｔ／０４２－９２５－０５８０